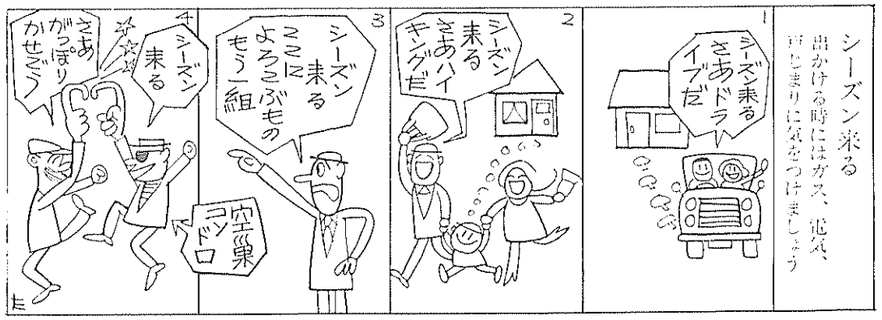
行楽の季節

ハーイ、おたがいに気をつけて



防犯　身体や財産は自ら守れ

いよいよ本格的な行楽の季節になり、家を留守にする機会も多くなるので「あき巣ねらい」や「忍び込み」の被害にかかりやすくなります。また、陽気がよく解放的になるため、すりや痴漢の被害も出てきます。

毎年、県下で一万件あまりの刑法犯罪が起きています。被害の原因をみてみますと、被害者の人がもう少し注意していたら、被害にかからなかったであろうと思われるものが少なくありません。

たとえば、「あき巣」や「忍び込み」の被害は、錠がかなったりあってもかけ忘れがその原因の大半を占めています。また、痴漢の被害にしても、暗い夜道の一人歩きや見ず知らずの男のドライブやお茶に誘われ、ノコノコついて行った結果となっており、こうした不注意をなくすると犯罪の大半は防げるものと思われます。

防犯は、決してむずかしいものではありません。しかし、実際に被害にあった人でないと、犯罪の恐ろしさや、くやしさは実感がわかないものですから無関心になりがちです。

被害にかかった後で、いくら悔いてみても手遅れです。まず「自分の身体や財産は、自ら守る。」という防犯の原則を身につけて、一人一人が注意して被害にかからないようにすることが何より大切ではないでしょうか。そして、さらにその心構えを一歩進めて、隣近所、町内（部落）ぐるみで、お互いに注意し合い、助け合って共同防衛することができれば心強く、その効果も一層高まるといえましょう。

最近、都市化がすすんで、新興住宅や団地、アパートなどが増え他人から干渉されたくないといったマイホーム主義の風潮が強く、昔からよくいわれた「遠くの親せきよりも近くの他人」というような隣保意識が薄らぎつつあります。しかし、防犯面ではこういった考え方は、かえって自分を危険にさらすことにもなります。やはり、昔から社会生活はもちつもたれつといわれているように、お互いに助け合ってこそ平和に暮せます。

「犯罪や事故のない明るい社会」これは、市民みんなの願いです。

隣同志はもちろん、地域社会の人々がお互いに助け合い、みんなが協力し合って私たちの悲願を達成しようではありませんか。

交通　心にゆとりのある運転

ふだんは慎重な運転をする人でも、遊びに行くときには、気分的に浮かれて、軽はずみになり、とりかえしのつかない事故を起こすことになりかねません。

そこで行楽期の交通事故を防ぐため、つぎの点に注意しましょう。

一、無理のない計画を

全国的に車の動きがはげしく、交通が混雑するので、予定どおりに目的地につくことは期待できません。途中の休けい時間など十分計算に入れて、余裕をもって出発するようにしましょう。また、ドライブコースなどは、事前によく調査するか、よく知っている人に教えてもらうようにしましょう。なお、初心者はなるべく山間地帯など道路状況のよくないところは避けるなど安全運転第一を心がけてください。

二、車の点検整備を完全に

エンジンやブレーキの調査はよいか、ハンドルにガタはないか、ウインドシールはよく作動するかタイヤの空気圧は適当か、などよく点検し、整備を十分にしてください。

三、身体の状態を整えて

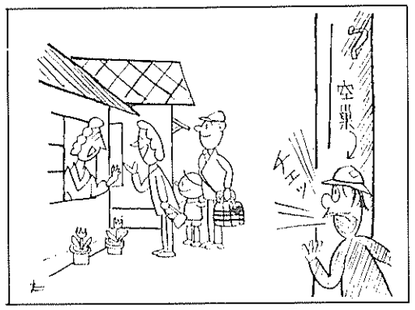
前日の疲れや、寝不足が残っているときなどは、途中で居ねむり運転や、うっかり運転による事故を招く原因になります。いつも心にゆとりをもった運転をするように心掛けましょう。身体のコンディションを整えておくことを忘れないようにしましょう。

四、カッコいい運転は禁物

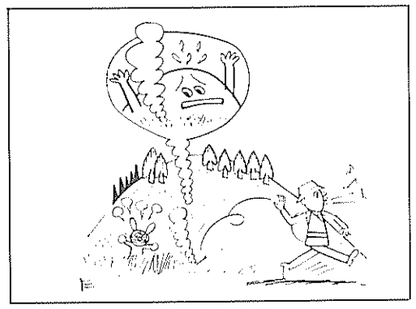
いったんハンドルを握ったら、同乗者の生命を預っていることを考え、スピード違反や無理な追い越しなど、絶対にしないようにしてください。途中で適当に休んだりして、疲れをとることも忘れてはなりません。

五、モーターバイクなどの運乗りは危険です。

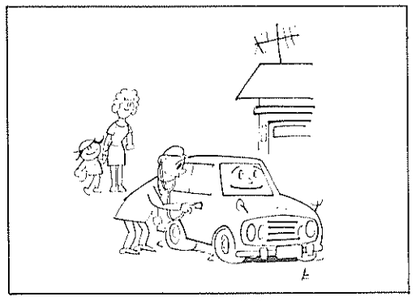
遠くへ出かけるときは、モーターバイクなどの二輪車はなるべく使用しないようにしましょう。もし、乗車する場合は、必ずヘルメットを着用して、頭をしっかり保護するようにしてください。



留守にする時、ちょっと一言
おねがいします。



なに気なしの投げすて山火事のもと



出かけるまえに必ず点検を……

火災　非常口、避難方法の確認

一泊以上の観光旅行をした人は、昭和三十六年、二、五人に一人の割合であったものが、四十六年には、一、三人に一人ぐらいとなっています。このように行楽人口は年ごとに多くなっていて、連休を利用しての観光など、行楽に出かける人も多いと思われます。

そこで、旅館、ホテルなど宿泊施設を利用するときの安全については、だれもが考えておかなければならないことです。

旅館、ホテルの経営者は、宿泊者の生命を預っているのですから施設の便利さ、豪華さへの投資のみにはしることなく、宿泊者が安心して利用できるように安全への配慮に万全を期し、それが最大のサービスであることを認識しなければなりません。一方、宿泊者も防火や避難についての心がけも大切です。ややもすると、日ごろの火に対する注意がおろそかになり、自分が結果的には失火犯になることも知らずに、寝たばこや投げ捨てなどにより、大きな悲劇につながることさえあります。

旅館、ホテルの防火と安全

▼旅館、ホテルでは

①消防用設備を定期的に点検して、いつでも使えるようにしておく。②火を使う器具と場所の総点検を行なって安全をたしかめる。③従業員の消防訓練を行ない、通報、消火、避難誘導など各自の役割を徹底する。とくに夜間の火災は大きな事故になるおそれがあるので、実態にあった訓練を行なう。④各室に非常口や避難経路を図示しておくとともに、宿泊客を案内して避難器具の場所や使い方を知らせる。⑤火災が発生した時は、早く宿泊客と消防機関に知らせる。

▼宿泊者は

①飲酒して寝たばこするなど、とかく間違いが多くなるので互いに注意し合う。②部屋に案内されたら、従業員に非常口や避難階段、避難器具などのある場所や使い方など、避難の方法を聞き、確かめておく。③もし火災を知ったら、大声でまわりの人に知らせる。④服装にこだわらず、できるだけ早く避難する。⑤いちど避難したら、絶対に物をとりに戻らない。⑥いっしょに泊った人で逃げおくれた人があるときは、早く消防隊に知らせ助けを求める。⑦団体旅行では、幹事まかせにしないで互いに協力し、自分勝手な行動はつつしむ。⑧幹事は全員避難したかどうかを確かめ、逃げおくれた人があるときは消防隊に早く知らせる。

ハイキングなどでの火災予防

①ハイキングやドライブ中のたばこの投げ捨てをしない。②たき火や炊事のあとは、土砂や水をかけて完全に始末する。③林野には、たき火の禁止などをしている区域があるので注意する。④炊事はキャンプ地など決められた場所でする。⑤グループのリーダーは常に防火についても気を配る。